

				記憶は、ある人の体験と共に作られ、その人の中に思っています。その記憶を記録として外在化するとき、語りぬ感情や文脈をどこまですくい上げることができでしょうか。	
	開講 特別講義	5/10	藤井光 アーティスト	藤井光さんは、国内外で活躍する現代アーティストです。藤井さんの作品は、映像やインスタレーションを通じて、視覚や聴覚、身体感覚の境界を探り、現代社会における情報や記憶の扱いを問い直します。「第一の真実」(2018)という作品では、2700年前の遺跡から発見された大量の人骨を巡り、考古学者が科学的に解明する事実の境界を映像で記録し、事実の先の真実を想像し演劇で表現しました。福島第一原子力発電所の事故から生まれた『あの叫びに分けられたクワッ』(2021)では、小学校の校区を圏と圏に分けることで映像や体験作品として表現しました。 科学技術は私たちの生活を便利に豊かにした半面、様々な軋轢もたらしました。今年は原爆投下からちょうど80年目の節目の年で、時に悲しみの被爆地である日本は、2011年、再び福島原発の事故で広大な地域が破壊しました。原力の利用は私たちの生活、健康にたかさんの思惑をもたらしましたが、便利で強大なエネルギーは時に悲劇を引き起こしました。科学がもたらす利点を伝えるとともに、科学が引き起こす負の側面を省み、科学がより安全で健全に運用されるような仕組みを考える場も創造します。その際には、記録の先にある記憶を想像し、語り合う必要があります。 開講特別講義では、藤井さんのこれまでの作品を通して、当事者と当事者でない人々が分かち合うためには、事実を超えて伝えるものとは、について考えていきます。私たちは語られた記録と語りえなかった記憶をどう未来に致すことができるのでしょうか。CoSTEPの開講式は、振り返ることから始まります。	
	モジュール 1	1-1	5/11	奥本素子 北海道大学CoSTEP 部門長 大学院教育推進機構 准教授	科学技術コミュニケーションの世界へようこそ。科学技術コミュニケーションは、科学をわかりやすく面白く伝えるだけでなく、科学技術の課題を語り合う場を設けたり、科学技術の未来について創造したりと、その活動は幅広い、また単発的な活動から長期的な関係性作りまでその密度も多様です。本講義では、科学技術コミュニケーションの水平的な広がりや様々な深さについて理論と実践の面から紹介していきます。
1-2		5/17	種村剛 北海道大学 大学院教育推進機構 リカレント教育推進部 特任教授 /CoSTEPフェロー	私たちはCoSTEPで「科学技術コミュニケーション」を学ぼうとしています。それではそもそも「コミュニケーション」とは何でしょうか。あるいは、なぜ「コミュニケーション」が大事なのでしょう。この講義では、コミュニケーションおよびその近接概念について説明できるようにすることを達成目標とします。加えて、大学で「科学技術コミュニケーション」を「学び直す」ことの意義について確認します。	
1-3		5/31	阪本邦彦 江戸川大学メディア コミュニケーション学部 教授	科学ジャーナリストは科学技術コミュニケーションの職業の一種です。科学や医学に関する情報が複雑化・高度化する中で、その役割の重要性は増しているはずですが、現状では残念ながら十分な役割を果たしているとは言えない部分もあります。NHKの医療・災害担当記者としての経験をもとに、科学技術コミュニケーションが社会の中でのどのような役割を求められているか、科学ジャーナリズムをめぐりいくつかの具体例を通して紹介します。	
1-4		6/14	松王政浩 北海道大学OECセンター長/理学研究院 教授	科学技術コミュニケーションのアプローチは、「科学者と市民との対話」だけではありません。科学哲学というアプローチがあります。科学哲学は、科学の成り立ちや、科学的方法の前提を分析することに興味がありますが、そうした分析の中には、科学技術と社会の対話のヒントとなるものがあります。因果性や価値判断といった、ふだんあまり深く考えないことがらに例に、「コミュニケーションに役立つ科学哲学」について紹介します。	
	モジュール 2	2-1	6/21	阿部幸夫 筑波大学人文社会科学助教授	拙著『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』は「アーギュメント」という概念を日本のアカデミズムに導入した書物です。これについては種々の反論がありますが、書けられる質のなかでも「うちの分野にアーギュメントという考えはそぐわない気がするのですが、どう考えればよいですか」というものが非常に多い。この講義ではアーギュメント概念について基本的なことを概説したうえで、書籍で挙げた例とは異なるスタイルの研究におけるアーギュメントの重要性について、研究の価値という観点から再考します。
2-2		6/28	古澤正三 北海道大学 CoSTEP 特任講師	科学技術コミュニケーションとして、学内の場であり、その学びを生かす場として「実践」があります。本講義では、CoSTEPでこれまで行ってきた実践をいくつかご紹介いたします。多様な事例から、コンセプトメイキング、ステークホルダー間のコミュニケーション、集客のための広告や情報発信まで、プロジェクトを進める上で必要となる態度や考え方、スキルについて一緒に考えていきます。	
2-3		7/12	北平航大、沼田翔二郎、奥村友佳子 北海道大学 CoSTEP 特任助教	学生生活やビジネス活動、科学技術コミュニケーションなど、さまざまな場面で多様なバックグラウンドを持った人々に接し、説明や報告する機会が増えています。それに伴い、効果的に自分の考えを伝えるプレゼンテーションのスキルの重要性も高まっています。本講義では、プレゼンテーションの基本的な考え方、技術、スライドのデザインを学び、限られた時間で伝えたいことを伝えたい相手に最適な手段を用いて伝えることができるようになることを目指します。	
2-4		7/26	早岡英介 北海道大学CoSTEP客員教授/羽衣国際 大学 教授	大学や研究機関、学校教育といった科学技術コミュニケーションの現場で、映像メディアの活用が始まっています。ライティングに比べると、映像制作は特有の文法や技術的なハードルがあるため、敷居が高く感じられる人も多いでしょう。もちろん撮影、編集、デザイン、本制作まで全て一人でこなすには、相当な経験が必要です。しかしチームワークの中で、企画やディレクション、撮影、ナレーションといった制作プロセスの一部を担うことは可能です。機材や編集ソフトの進化で、何でも1人でこなせる時代にはなりましたが、プロセスを分解してみると様々な表現スキルの組み合わせで映像は成り立っています。本講義では、近年の制作現場で得られた最新の知見をお伝えします。	
	モジュール 3	2-5	8/2	大内田美沙紀 北海道大学 CoSTEP 特任助教	科学専門の「サイエンスイラストレーター」と名乗るようになって約10年。これまで大学や研究所、博物館などで鳥類学、昆虫学、魚類学、古生物学、そして生命科学に跨る分野のイラストを描く機会に恵まれてきた。サイエンスイラストレーションはただ見栄えよく描くだけではない。伝えたい科学の本質によって、強調して描く部分と、あえて簡略化して見えない部分がある。また、誰を対象とするか、何を伝えるかによって、うまくスタイルを調整する必要がある。これまでの経験を振り返りながらイラストの「伝える力」について改めて考え、活用法について紹介していきたい。
3-1		8/30	毛利剛 宇宙飛行士・日本科学未来館名誉館長・ 全国科学館連携協議会会長	20世紀、アポロ計画から生まれた宇宙船地球号というコンセプトは私たちが国境を超えて人類として協力し合うことを端的に表したものです。実際に放送や気象衛星、GPSなどの宇宙開発を通じて私たちの日常生活に欠かせないグローバルな情懷となりまりました。21世紀に入り科学技術の専門家と社会を結びつくり、より良い社会が生まれると期待されたCoSTEPが誕生しました。ところが、現在の地球は、急速な地球温暖化、紛争、アンバランスな資源分配など、とも協力し合っている状況ではありません。これを解決するには、CoSTEP設立から20年を経て、専門家と市民を結びつけないといけないことが分かってきました。より多様な人と、より総合的な智恵を結ぶ必要があるのではないのでしょうか。ライフワークとして今まで40年間「発掘科学技術と社会をつなげる活動」をされてきた毛利剛さんをお招きし、人類社会が持続的に未来へ生き延びるための知恵「未来学習」について語ってもらいます。	
3-2		9/6	池田貴子 北海道大学 CoSTEP 特任講師	社会で起きている問題に関するステークホルダーは常に多様です。そしてそのステークホルダーの数は日増しに増えています。対立する他人間を理解しようとするのは難しいことです。相手の立場や考えについて、理由や根拠ではなく「腑に落ちる」として納得させることができれば、少しは互いの距離が縮まるかもしれません。本講義では、札幌市民を軸とする「都市デザイン」にまつわる問題について、各ステークホルダー（地域住民、都市公園管理者、行政、野生動物研究者、コミュニケーションなど）が、どのように歩み寄ろうとしているのか、CoSTEPでの実習活動も絡めた現在進行形の取り組みをご紹介します。	
3-3	9/20	河本宏 京都大学 医学物理学 所長	「科学コミュニケーション」では、科学者と一般市民が対等な関係で「対話」をする。科学者側にとっては「説明義務」であるが、一方市民側にも「監視義務」が生じる。ただし、実際にはそういった義務に縛られた関係性だけでなく、イベント主催者の多くは、「関係を得る喜び」「大きな影響力になっている」という思いがある。私はまさにそうで、イラスト、音楽、動画配信など、趣味で培った特技を活かした様々な手段を介して、「楽しく」取り組んでいる。科学者と市民は、根っこでは心動かしているのが良いと思う。		
3-4e	9/27	三上直之 名古屋大学大学院環境学研究科 教授	重要な公共的課題についての意思決定に、幅広い市民が参加して議論するための仕組みとして、無作為抽出などにより社会の縮図となる一般の人びとを集めて話し合う「ミニ・パブリックス」という方法があります。その代表的な手法であるコンセンサス会議や市民陪審、討論型世論調査などは、科学技術への市民参加にも国内外で用いられてきました。近年では、気候変動対策にこの方法を活用した「気候市民会議」が、欧州を始めて、日本を含む世界各地で行われるようになってきました。この講義では、ミニ・パブリックスの概要と応用例を学ぶを通じて、科学技術に関わる社会的な問題の解決に向けて人びとが共に考え協働するための参加と熟慮のデザインについて考えます。		
	モジュール 4	4-1	10/4	Cho Sook-kyong Professor of Korea Institute of Energy Technology	In this lecture, I will first present an overview of the background and collaborative efforts undertaken by Korea, Japan, and China over the past 15 years, with a particular focus on the Science Culture Roundtable and the Joint Symposia at the AAAS Annual Conference. Second, I will discuss the challenges posed by global issues such as artificial intelligence, energy transition, and climate change to science communication. Finally, I will propose strategies for advancing cooperation between Korea, China, and Japan, offering insights into the future development of science communication in Asia.
4-2		10/18	宮内泰介 北海道大学大学院工学研究院 教授	環境保全などの社会課題解決においては、多層的なあつれきや対立をどう乗り越えていくかが重要になってきます。しかし、合意形成はそんなに簡単ではありません。そのときに興になるのが「聞く」ことです。なぜ合意形成は難しいのでしょうか。なぜ「聞く」ことが重要なのでしょう。「聞く」とは具体的にどういう行為なのでしょう。また聞いた結果の質的データをもとにどう分析し、そしてそれをもとにどう合意形成すべきなのでしょう。	
4-3		10/25	バーチャル美少女ねむ Vtuber / 作家 / メタバース文化エンバ ジスタ	全身で三次元の仮想空間「メタバース」に没入し「インターネットの中で人生を送ることができる」時代が遂に訪れた。本講義では、解説書『メタバース進化論』の著者「バーチャル美少女ねむ」が、実際にメタバースで人生を送る自身の生活とメタバース体験を行い、2000名以上を対象に実施した大規模調査データを元にその革命性を解説する。質疑応答の時間を長めに設け、新たな発想の生まれるインタラクティブなセッションを企画する。	
4-4		11/8	朱希智 大阪大学 社会技術共同研究センター 研究推進の会 代表理事 / 哲学者	新奇的な科学技術が社会に実装する過程には、「技術的にはできるけど、やってみようか」という課題が山積しています。それらを「社会的に受容されるか(Social)」「どんな法規制があるのか(Legal)」、そして「どんな倫理観に基づいてやるのか(Ethical)」の観点から弁別し、社会的に受容されるフレームワーク「ELSI (倫理学) ; Ethical, Legal and Social Issues) 」です。本講義では、とくにELSIをどうコミュニケーションで重要にする「E (倫理)」の語彙を中心に、科学技術の社会実装に際して「哲学・倫理学」が果たす役割を実践的に紹介します。	
4-5e		11/15	前田至剛 追手門学院大学 社会学部 准教授	現代はインターネット、とりわけSNSによるコミュニケーションが埋め込まれた社会となっている。SNSはフェイク、炎上、分断を煽る情報の流れを生み出す一方、流動化・個人化した社会で求められる他者との接続を維持・管理するためのツールとなり、社会関係資本の蓄積にも貢献している。このSNSの両義性を左右する要素や条件について調査データにもとづき考えます。	
4-6		11/22	福場博太 医療法人 風のすずらん会 委員すずらん クリニック 副院長/復健療養を専門に医 療従事者の会 代表理事 幹事/公益社 団法人 NEXT VISION 理事	医療や福祉において、その質や妥当性を評価するのは難しい。「何を提供したか」という支援者側の視点だけで評価しても、「何を求められたか」という当事者側の視点だけで評価しても、回復の本質からどこかズレがずれてしまう。本講では、精神障害の支援者であると同時に視覚障害の当事者でもある演者が、両方の視点から導いた回復の意味、社会が目指すべきインクルージョンの在り方についてお伝えする。	
	モジュール 5	5-1	11/29	中国SFの過去・現在・未来 北山篤子 (立原透郎) 日本書評家/文芸学博士	本講座では、中国SFの歴史的な流れと作品、作家について紹介しながら、同時に中国SF独自の発展を遂げてきた「科学普及」の点についても考えていきたい。中国ではSFは科学普及と密接であり、昨今では教育に深く関わってきた。教科書にも星新一や劉慈欣の作品が掲載されたり、大学入試問題にSFが用いられたりしている。またSFを使った幼児教育も盛んである。SFがどのように世間に影響を与えているのか、中国を例に考察していければと思う。
5-2		12/6	民族多様性と「わたし」の位置： 研究を例に考える 北原モコトツナ 北海道大学 アイス・先住民研究セン ター 准教授	近年、外国人の増加などを背景に、日本社会の多様化が進んでいると言われています。しかし、日本が「民族的」に多様になったのは、それより100年以上前のことです。あらゆる組織はこれまでも多様でしたし、潜在的なニーズの違いもあります。その多様性を見逃すことは、合理的な配慮を提供しないことにもつながります。大学の中で過ごす「日本」の多様性を例に、マジョリティとマイノリティの関係を考えます。	
5-4e		12/10	ファクトに基づく 調査報道の限界と可能性、 ジャーナリズムの本質とは 鈴木エイト ジャーナリスト/作家	「カルトと政界」「世間問題」「ワクチン騒動」「ニセ科学」大手メディアが報じないビックを継続取材してきました。独りよがりにならないために重要なのは「ファクトに基づくデータの蓄積」です。独自の調査報道の実例を示し「報道における公平性、両側面記述の是非」「読者や前面に立てる報道姿勢について」「サブライブの報道による弊害の事例」「ドキュメンタリーにおけるコンテンツ消費」「ニセ科学者と思考停止」「報道と科学的正しさ」といった論点・視点から「ジャーナリズムの本質」「ジャーナリズムの本質」について話していきます。疑念をスルーせず問題意識を継続しモチベーションを保つ秘訣、身の危険やリーガル・スレッド(法的威嚇)への対策も。	
6-1		12/13	大学の先生芸人が伝えるサイエンス コミュニケーション ～それほど科学に興味がない人に どのように伝えるのか～ 黒澤P教授 吉井英義 (大学の先生芸人)	科学に興味がない人向けの科学技術コミュニケーション (以下、SO) を専門に研究や実践をする黒澤教授と申します。その割合が2割程度 (またはそれ以下) にとどまっています。皆さんは芸人になりたいたくはないと思いますが (笑) 実は芸人が突っ走るまでの周辺技術を学ぶと、SCIは見違えるほど変わるんです。なので、この回は黒澤P教授を知ってもらいたいから、その技術も簡単に紹介できればと思います。	
	モジュール 6	6-2	12/20	理系分野に進学する女性が少ない のはなぜでしょうか？ 一方非理工 系大学人間社会研究地域創造学 部 准教授	日本では、理系分野に進学する女性の割合が世界的に見ても少ないとされています。特に物理学や数学分野では、その割合が2割程度 (またはそれ以下) にとどまっています。この背景にはどのような要因があるのでしょうか？また、これからの社会に向けて、私たちはどのような取り組みができるのでしょうか。皆さんと一緒に考えてみたいと思います。
6-3		1/10	エンターテインメント業界の武器 としての科学、その意義と価値 純蔵 漫画家・原作者	本講義では、漫画家・原作者としての経験を通じて得た、サイエンスエンターテインメントを融合させる技術と意義について語ります。フィクションの読者力としての科学という武器の使い方、また科学的正確性と物語との確をどのように両立させるかのテクニック、社会的影響を意識した監修業務の重要性など。科学コミュニケーション力がエンタメ界においていかに価値され、ビジネスとしての価値を創出するのかが実務に基づいて解説します。	
6-4		1/24	STI政策の中の科学技術コミュニ ケーション、STI政策への科学技 術コミュニケーション 菊地尚久 国立研究開発法人 科学技術振興機構 研 究開発戦略センター フェロー	日本の科学技術(イノベーション)政策は1995年に科学技術基本法が制定されて以降、これまで6期、各5年間の基本計画に基づいて推進されてきました。2026年から第7期科学技術イノベーション基本計画が開始予定です。講義ではまず科学技術コミュニケーションを軸にSTI政策の進展と今後の方向性を説明し、次にSTI政策を立案する上で様々な専門家がどのように行動しコミュニケーションを取って行けば良いのか、問と答を知識 Brokerに求められる役割なども合わせて議論します。	
6-5		1/31	CoSTEPの講義を振り返って CoSTEP教員	GoSTEPで開講された講義を振り返り、「科学技術コミュニケーションの思考」、「情報の分析と行動のための計画手法」、「科学技術コミュニケーション実践」に関わる知識や技能、そして実践事例のポイントをGoSTEP教員が振り返ります。本講義を通して、講義内容の理解を深め、一年間の学びの省察をし、今後の実践活動に活用していくことを目指します。	